

糸我小学校だより

令和元年5月13日



これからの教育—主体的・対話的で深い学びの実現を目指して

新年度を迎え、早くも一か月あまりが経ち新緑の季節5月です。芽吹き青葉のように子供たちもすくすくと成長しております。先月は授業参観・育友会総会・学級懇談会へのご参加、誠にありがとうございました。たくさんの保護者の皆様のご参加がありました。お子さんへの教育や本校の新年度の取組に、強く関心をもっていただけている証と教職員一同意を強くいたしました。

さて、令和2年度から、新学習指導要領に基づく教育が始まります。新学習指導要領では、獲得を目指す力について次の3点を挙げています。

- ①生きて働く「知識・技能の習得」
- ②未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力の育成」
- ③学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性の涵養」



これらの能力を培うため、必要な学習の形態として「アクティブ・ラーニング」（授業を受身的な学習から活動的で能動的な学習）への転換を挙げています。そこで、国が示す学習内容の基準となる学習指導要領を改訂し、各教科等の指導内容を見直し「アクティブ・ラーニング」につながる主体的・対話的で深い学びの実現を目指すことになりました。

「主体的な学び」とは、学ぶことに興味や関心を持ち、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、見通しを持って粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる学びです。「対話的な学び」とは、子供同士の協働、教職員や地域の人との対話、先人の考え方を手掛かりに考えること等を通じ、自己の考えを深める学びです。「深い学び」とは、習得・活用・探究という学びの過程のなかで、各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう学びです。もちろん、これらの学習は、これまでも小学校教育で重視してきた学習ですが、学習指導要領の改訂によっていっそう充実を目指すものです。

本校は、研究主題を「主体的・対話的で深い学びへ」として研究を進め、時代の変化に対応した主体的・対話的で深い学びの実現に向けて研鑽を積んでまいります。

授業参観・育友会総会・学級懇談会

上記でも触れましたが、4月26日（金）は今年度初めての参観日でした。授業の様子を見てまわると、子供たちは、教室にいるお父さんやお母さんを意識してか、張り切っているように感じました。学年はじめて、いよいよ軌道に乗ってこようかという頃の授業ですが、とても前向きに学ぶ姿を見せてくれていました。

授業参観の後の育友会総会で、今年度の役員紹介がありました。改めて右の通りお名前を載せておきます。役員の方々、そして、各委員の方々を中心にして本年度の育友会活動の推進のために、みなさまのご協力をよろしくお願いいたします。



令和元年度 育友会役員

会長	中村	行男	さん
副会長	吉田	信介	さん
副会長	丸山	八津美	さん
会計	西	恵子	さん

田んぼの学校 活動始まる!

<種まき>

いよいよ今年度も「田んぼの学校」の活動が始まりました。

この活動は、糸我地区青少年育成会等のみなさんのお力添えのもと行っている活動です。

5月7日（火）に、5年生が稲の種まきをしました。田んぼの学校の校長先生である山崎佳彦様に指導を受けながら、子供たちは①～④の手順で作業を行いました。

- ①まいた種の上に、土をかぶせる。
- ②①の上で重みのある壺のようなものを転がし、かぶせた土と種をなじませる。
- ③鳥に種を食べられないように、あみをかぶせる。
- ④水分を保つために、わらをかぶせる。

好天に恵まれたさわやかな青空の下で、子供たちは笑顔で活動することができていました。種から芽が出て、順調に苗に育ってくれることを願うばかりです。そして、6月13日（木）に苗取り、14日（金）に全校児童で田植えを行う予定です。



①の作業の様子



②の作業の様子



④の作業の様子

<アイガモの孵化>

田んぼはアイガモ農法で管理します。アイガモは卵から^{かえ}孵して、放鳥します。そこで、5月9日（木）に、アイガモの卵20個を学校に設置した孵卵器の中に、5年生の子供たちの手で入れ、温め始めました。卵には、「元気に生まれてきてね」などの子供たちの思いを書いています。6月4日（火）頃に孵る予定です。



「あいさつ」は言葉のキャッチボール

「おはようございます」毎朝子供たちとかわすあいさつで心が温かくなります。

こんな光景を見たことがありますか。子供が、バスや車から手を振ったとき、歩いている人が、手を振ってくれると「あ、手を振ってくれた」と喜ぶ子供の姿を…。

相手から返ってくることの喜びは、こんなにも大きいのです。自分が投げたボールを受け取り、そして投げ返してくれる。このキャッチボールが、なによりも嬉しいのです。

「挨拶」という漢字の意味は、「身をそばにすり寄せて押し合うこと」です。つまり、相手の心のとびらをそうっと開くことです。形だけのあいさつは、相手の心には届きません。手を振り返してくれたことを喜ぶ子供たちには、相手の笑顔も無関係ではありません。表情は、ことばよりも心に響くのです。

「おはよう」「おかえり」など、ことばと笑顔による心の栄養を子供たちに浴びせて育てたいですね。「ありがとう」も素敵なことばですね。

